



ちよっと調整するじやう

例えば、「見えにくい」「目が悪
 い」などの理由で眼科に通院し、
 医師から「メガネを勧められた
 らどろどろしようか。世の中を見
 まわすとメガネをかけていたり、
 コンタクトレンズをしている人
 はたくさんいるので、視力に関
 することならばそんなに抵抗な
 く、むしろ必要性をもって視力
 矯正をする方が多いのではない
 でしょうか。

例として視力矯正をあげまし
 たが、私たち自身の身体や脳が
 うまく機能しないときには、「メ
 ガネ」を「薬」に置き換えること
 同じようなことが言えます。環
 境からのサポートや周囲の理解
 がとても大切だということは言
 うまでもありません。しかしそ
 の上で、以前関わっていた子ど
 もと家族の話を紹介します。
 Aくんは幼稚園のころからエ
 ネルギーいっぱい活発な子で

とがなく、「ちよっとしたこと」
 が友達との大きなトラブルに発
 展してしまうことがありました。
 家族は「どうしたら落ち着くか」を
 考えて行動しつつも、いつも他
 のお母さんに「申し訳ない」と恐
 縮していました。小学校に入學
 したAくんは勉強はそこそこ
 き、言うことも達者、キラリと
 光るセンスでいい提案をするの
 ですが、友達とのトラブルは続き、
 そうついたことが重なり、いつ
 しか一人で行動していることが
 増えていきました。経過の中で学
 校から受診を勧められたことも
 ありましたが、両親は「どうした
 ら良くなるか」を常に学校と相談
 し環境や接し方を工夫しながら、
 Aくんを学校へ送り出していま
 した。高学年になった頃、「なん
 でほかだけ、こんな辛い思いを
 しなくちやいけなんだ」と話す
 ようになりました。「辛い」とい
 うのは、「ぼくだって、考えながら
 動いているのに、ぼくだけ怒ら
 れる。いつともぼくだけ」とい
 う「誰も理解してくれない」という辛
 さを感じた。さらに時が経って、「辛
 さ」に加えて様々なトラブルが家
 庭でも学校でも起こるようにな
 り、両親と学校はさらに何度も
 話し合いを重ねました。その中
 で「こんな状態が続いていて、子
 どもも苦しんでいるようならば、
 薬に頼ってもいいのかもしれない
 い」という思いが両親に生じ、意
 を決して小児精神科を受診しま
 した。医師はAくんの状態に加
 え、これまでの環境の工夫や本
 人・家庭・学校の努力、それで
 も起きるトラブルと本人の辛さ
 を考慮し、薬を出してくれました。
 その時に本人がもらった冊子に
 は診断名が載っていたというこ
 とでした。
 初めは薬を飲むのは怖かつ
 た」と話していたAくんですが、
 しばらくすると「エネルギーが使
 い分けられる感じ。集中力を使
 う時とリラクソスの時が分けら
 れるようになった。今、何をす
 べきかがわかるようになったと
 落ち着ける自分を実感できるよ
 うになりました。また距離ので
 きていた友達とも「あの子はこ
 ういういいところがあるんだ」「最
 近、○○くんはぼくに普通に話
 しかけてくれるんだ」「○○くん
 と一緒に先生の用事をやったんだ。
 信用されるっていいね」と徐々に
 関係性を取り戻していったので
 す。しばらく経ってから服薬に
 ついてAくんに聞いてみると「冊
 子に診断名が書いてあったから
 最初はちよっと気になったけど、
 今はそれより飲んで良かったっ
 て思う」と話していました。家庭
 でも「こんなことならもつと早く
 飲ませればよかったかも。とは
 いっても前だったら環境でなん
 とかしようとしてきたし、病院
 自体に私たちも抵抗があったし、
 薬なんてとんでもなかったから。
 ここまでできたから踏みこめたこ
 とではあったけど」と気持ち話を
 していました。
 「すべてこの時に時がある」関
 わっていて強く感じた瞬間でし
 た。常にその時にできるベスト
 を尽くしてきた経過があったか
 らこそ、みんなが納得し前向き
 になれた「ちよっと調整するこ
 と」だったのですから。受け入れ
 ること、一歩前に進むことで「頑
 張っているにもかかわらず辛い」
 ということから解かれることも
 あるということを知っている
 といないのでは大違いです。周
 りの理解が後押しや大きな支え
 になることは明らかです。「メガ
 ネ」ほどの一般性はなくても、薬
 によつて調整されて本人が生き
 やすさを実感し、対人関係もス
 ムーズになるといふこともある
 というエピソードでした。

追分宿郷土館
「子ども歴史体験」
 ～冬の手仕事講座～
開催のお知らせ

○つる細工を作ろう！

とき 3月9日(日)
 9時30分～12時
 講師 土屋 真知子 先生
 定員 30名
 材料費 100円

○はたおりを体験しよう！

とき 3月16日(日)
 1回目 9時～10時30分
 2回目 10時30分～12時
 講師 浅沼 真知 先生
 定員 各8名(計16名)
 持ち物 不用になった綿の布

※両講座ともに、電話で申し込
 みください。定員になり次第
 締め切ります。
 親子での参加も可能です。

【申し込み問い合わせ】
 追分宿郷土館
 ☎45・1466